

特定非営利活動法人
民謡民舞公演実行委員会

通信

発行日 令和4年6月6日

号数 第2号

発行 NPO法人民謡民舞

公演実行委員会

発行人編集人 三宅良二

事務局千葉県緑区高津戸町309-44

お元気でしようか

理事長 三宅良二

今年も早いもので前半戦最後の六月。肌も汗ばむこのごろ、お変わりありませんか。

平素は当会の運営・事業にご協力頂きまして誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

毎朝日課のように連続テレビ小説を見たあとに、よくNHKBSのテレビ番組「につぼん縦断こころ旅」が好きで見えています。日野正平さんが、投稿のあつた方の忘れられない「思い出の風景」を自転車で訪ねる番組です。ハアハアと坂道を登るシーンが最近は少ないようです。日野正平さんの会話の中で、さらりと出てくる言葉は面白く、中でも印象に残っているのが「下り坂、最高」です。自転車で登る坂道と人生の坂とを、かけての言葉と思いますが、七十歳を過ぎた日野正平さんの口から出ると含蓄のある言葉に聞こえるのが不思議です。

昨年秋、島根県を訪れる、とのことで募集がありましたので試しに応募してみました。

年に一回海水浴に行った浜田市の海岸や、山頂から見たふるさとの田園風景等とも思いましたが、ふと原付の免許を取ったすぐの高校生の頃、父と二人で県内の母親の実家に行った原付ツーリングの時に、立ち寄った隣町市木の、山門に龍の彫刻のある古いお寺のことを思い出し応募してみました。

そこは大正十年生まれの父親が尋常高等小学校を卒業後、奉公に行った屋敷があるところで、奉公先をやめた出来事を聞いたことがあります。その後、父は大阪のお米やお酒や醤油を扱うお店に奉公に、そして招集され、戦後南方戦線パプアニューギニアから和歌山県田辺港に引き揚げてきたようです。

無事帰ってこれたことができたので今の私がいいます。

残念ながら私の「思い出の風景」は

採用されませんでした。私の田舎は中国山地の山間部で自転車には厳しいところです。

この番組を見て改めて思うことは、お一人お一人に歴史があり、家族があり、子供時代があり、青春時代があり、老いがあり、思い出があり、夢があり、映画にでもなるよう



山頂から見た島根県邑南町の風景

な物語がある、ということですね。「人生は神の演劇。劇作家、監督、演出も兼ね、その主役は己自身である」というような言葉をどこかで教わったことを思い出しました。後悔のないように生きたいものです。

今、海の向こうでは、将来の夢を諦めなければならぬようなことが起こっている国があります。つい七十数年前に、この日本でもあったことを思うと、今、この時代に生かされていることを幸せに感じています。

コロナ禍での多少の不自由さも、大したことはないように思えてきます。

3月に予定しておりました「千葉の民謡を唄おう 民謡日本一選手権」は、残念ながら中止となりましたが、これから7月31日浅草木馬亭での「夏の華まつり」、8月21日の本年年度の総会・懇親会、9月12日から二泊三日の山形旅行、10月10日亀戸カメリアホールでの一周年記念公演「秋の華まつり」と事業が続きます。どうぞご協力くださいますようお願い申し上げます。

これから梅雨、そして夏を

迎えます。どうぞご自愛ください。

音楽は始めがあり

終わりのあるもの

笹本 壽

生まれたばかりの赤ちゃんが物の形を判別できるのまで百日以上。しかし聴覚は、胎内ですでに発達し身の廻りの音をすぐ聴くことができ、その音は胎内の奥深くで記憶され、誕生してからはまだ口真似をしながら言葉を覚えていくそうです。

この地球上で言葉を持たない民族はいても音楽を持たない民族はいないそうです。

田畑が広がり、山並が見え、海鳴りが聴こえる村々、あるいは細い路地が入りくみ家々が並ぶ町々、このような風景の中から聴こえる「音」は、音楽の基になっているように思われます。その自然の音に耳をかたむけてみますと、風が木々を通り抜けるとき、雨が降り川となり水が流れて波が打ち寄せるとき。生活の音では、物売りの声、動物の鳴き声、

大工の作業、人の足音、祭りの賑わい、泣いたり笑ったりする声など自然界や人々の生活の中には音が満ちあふれているようです。このような自然の発する音に感動し、その音を自分で作ったもので出せるようにしたのが楽器の始まりで、人類誕生の早い時期から人と共にあったと言われております。人は仕事が進むと鼻歌が出て、森の中で小鳥に会えば思わず口笛で呼びたくなったり、形のいい石があれば打ちたくなったりします。聴くだけでなく何かを表現するために音を使い、自ら楽しみ他者からも聴いてもらいたくなる。これが

「音楽の始まり」のように思われます。

三つの味がする「三味線」は一の糸には父親の威厳を、二の糸には母の優しさを、そして三の糸には生活の息吹を感じると言われています。私はこの三味線と出会い半世紀になりますが、未だに思う音を掴めず探し求めているところです。

最近では繊細な音を出す楽器の一つとして注目されて、民謡はもちろん五線譜で作曲された演歌や作曲などのレコーディングにも依頼されるようになりました。これは西洋楽器とセツシヨンできる音階が表現できるからです。



ちなみに民謡音階をみてみますと、五音階となっており「陽音階はド・レ・ミ・ソ・ラ」が中心でファとシが出てきにくい。また「陰音階ではラ・シ・ド・ミ・ファ」が中心でレとソが出てきにくい音階が民謡音階の特徴となっています。

どの音楽にも共通することは「音楽には始めがあり、終わりがあつたこと」です。

音楽にはいろいろな約束事があり、シナリオがあります。これらのルールを勉強することとも大切ですが民謡は、その土地の人々の魂が込められ歌い踊られているものだけに、正しく語り、歌い踊り継いでいきたいものです。

人生にも誕生から終わりで、音楽と共通することがあるように思います。仲間でどんなシナリオを作り生きて行くのか、ちなみに私は理事長、三宅良二さんはじめ仲間と一緒に民謡に携わって人生を終えられたら幸せです。

民謡との出会いに感謝

宮本星宝舟

皆様におかれましては益々

ご清祥の事とお慶び申し上げます。

生まれ育った長野県を離れ、嫁ぎ先の姑の勧めで始めた民謡。最初は何もわからず、戸惑いもありましたが、民謡をやってきたお陰か、姑とは周りから羨ましがられるような関係で、実の娘のように可愛がられ、家族に恵まれ、今まで大きな病気をすることなく、元気に過ごすことができました。

昭和48年恩師向山房星先生によって創立されました「房星会」。昭和52年に日本民謡協会より認証されました。昭和58年師より「星宝舟」の雅号を授与されました。

平成5年日本民謡協会の民謡・三味線の教授資格取得。平成13年三味線・藤本流師範「藤本秀綾華」の雅号を授与される。平成15年日本民謡協会より「民謡貢献章」受章。

向山房星先生は多くの民謡愛好家を育てられ二十五年来に体調を崩されて、ご勇退され、その後先生より房星会の継承について相談を受けました。その翌年の平成11年、その責務の重大さに身の引き締まる思いの中、微力ながら房星会を継承させていただくことになりました。継承後、平成15年に「三十周年記念大会」を、平成二十年に「三十五周



年記念大会」と師の「生誕百年」を合わせて記念式典を行いました。民謡を通して人と人との和ができ、又、出会いの尊さを教えていただきましたことに感謝いたしながら、これから庶民の伝統文化であります、この民謡を次の世代に継承されるよう、願っております。

毎回のようにお参りしていただきました七年に一度の善光寺の御開帳。前回は長野県人会の皆様と大勢で、楽しくお参りさせていただきましたが、今年度はこのような状況で自粛しました。次回の御開帳には、元氣にお参りしたいと思っております。

声に出して笑うことを心掛け、子供や孫に囲まれて、ご縁に感謝しながら、これからも民謡を続けてまいります。

最後になりましたが、皆様のご健康とご発展をご祈念申し上げますと共に、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻くださいますようよろしくお願い申し上げます。



関宿城博物館

房総のうた つれづれに

① 関宿祝い唄(これさま)

鶴家 奏英

今回から房総半島のあちらこちらと、小生が心の趣くまゝに訪ね歩いて、収集した民謡の再発見を主に書いて見たいと思います。民謡を趣味として関わっている方、関わっていない方もどうぞ宜しくお付き合いの程をお願い申し上げます。

さて私の住んでおります千葉県野田市は千葉県北部地方に位置し、その北端にある、歌手の橋幸夫さんの『潮来笠』にも登場する城下町、関宿は、利根川と江戸川の二大河川に挟まれ、古くから水運の要所として栄えました。この地に古くから伝わる民謡に、関宿祝い唄「これさま」という唄があります。

民謡界ではあまりなじみは薄いかもしれませんが「これさま」は、婚礼をあげる家をお祝

いする、褒めたたえる歌です。家柄をほめ、館をほめ、嫁をほめ、婿をほめ、果ては仲人様をほめる。全て褒めることにあるのです。他には、床の間をほめ、ご馳走をほめ、庭をほめる。一連の祝い唄を総じて「これさま節」と呼ばれています。

昔の婚礼は、嫁ぎ先の家で行われるのが一般的でした。今で言う披露宴は「祝言」と呼ばれ三日三晩行われていました。お嫁さんをもらった家では、婚礼の明くる日に「茶事・ちゃごと」と言って近所の女衆や、婚礼を手伝ってくれた人たちを呼んでご馳走をふるまう習慣がありました。手伝ってもらったお礼や労い、嫁さんと仲良くしてくださいね、といったことでしょう。その時にも「これさま」が真っ先に唄われたそうです。

この唄は平成七年に野田市で行われました「利根川民謡紀行公演」で初めて発表させて頂いた曲です。いまでも代々続いている農家では歌う人がいます。

「関宿祝い唄」(これさま)

♪これさまのお盆 どなた様から始めます 鶴亀の器揃えて 仲人様から始めます 仲人様から始めます

(ハアメデタイ メデタイ)

♪これさまのお婿様は ご器量人で お手書きで 金硯蒔絵の 筆で天飛ぶ小鳥をチヨイと書いた 天飛ぶ小鳥をチヨイト書いた

♪これさまのお嫁様は 春の花見に よく似たり 齒は白し 花は霧島 ほど良く咲いたよ末長く ほど良く咲いたよ末長く

少年時代の思い出

堀内 房湧

私は、山梨県の南部に位置する五つの湖、富士五湖、その中に山中湖があり、壮大な富士山を仰ぐ、美しい環境の中で生まれ、育ちました。標高1千メートルぐらいでとても暮らしやすい地でした。春には野に咲く花々、特にカラ松の芽吹きや山桜の花などは素晴らしかったですね。夏は、扇風機やエアコンなどとは無縁で、避暑地として知られ、大変人気



の有る地です。秋になると私の一番好きだった食べ物がある。こちらに実っていました。アケビ、栗、クルミ、梨、山ぶどう、山桜の実など、特にアケビなどを食べ過ぎて種がフンスマリを起こして、便秘に苦勞しま

した。それでもこれに懲りずに食べ続けたものでした。冬には1メートルくらいの積雪がありました。湖には氷が張り、ワカサギ釣りやスケートを楽しましました。スケートは下駄スケートで、下駄にスケートの

刃を付けた粗末なものでした。なにせ、昭和二十年後半の話ですからね。また、山中湖ではマリモの生息も確認されています。

我が家は8人兄弟で私は7番目、姉が4人、兄が2人、弟が1人で、兄や姉は皆、就職したり、嫁いだりしたため、私と弟が家の仕事を手伝うしかなかったのです。しかし、弟はまだ小さかったので、そのすべてを私が担っていました。父は仕事で馬を飼っていて、私が馬の世話をしていました。馬の食事は青草が主で、2セン

チぐらいに切って与えていました。馬ですから大量に用意しなければならなく、さらに、それを朝夕与えるほか、飲み水も大きなバケツ桶2杯と非常に大変でした。長男は養豚業を営んでおり、五十頭くらい飼育していました。豚の食事は一日中煮込んだものを与えます。出産は十頭くらい、生まれた子豚は人の手を借りないと乳を飲むことができないので、一頭ずつ乳をくわえさる必要があります。又々大変。それが1カ月くらい続き、油断すると潰されてしまうので、気をつけないと命を落とすことも。馬の世話は楽しかったですね。鞍を付けた馬に跨り、騎手になったつもりでよく走らせました。馬は仕事もしました。父に代わってお客さんを乗せて、コースになっているところを周るのです。30分コース、1時間コースがあり、手綱を引いて周るのです。1回だけでしたが、お客さんを乗せた馬車を引いて湖を一周したこともあります。十六キロの道程でしたが、とても楽しかったですね。中学3年の夏休みの時でした。馬が好きだった

のですね。一時は騎手になりたかったのですが、反対をされ叶わず。でもこの少年時代の体験は本当に楽しかった。仕事も辛いと思った事も一度も無かったですね。楽しかったところがある日、我が家に東京からお客さんが来て、親戚の女性とのことでした。その女性の姿をみて、東京の人はこんな洗練された人ばかりなのだとの思いで、心は東京に向かっていました。そんな折、東京での就職の話が持ち込まれ、渡りに船で、即答で十五年間生まれ育った故郷を後にしたわけです。おわり

後を継ぐもの

二代目 原田英昌

初めまして、二代目原田英昌(清水建児)と申します。

昭和42年に東京築地で生まれ、千葉県八千代市という所で育ちました。

現在私は本業として日本橋箱崎で父の会社を受け継いで印刷関係の仕事をしています。芸事では昨年お家元の原田英昌先生が逝去され、二代

目原田英昌として英昌会を受け継ぐことになりました。

師匠亡き後、コロナ禍のうちに私で努まるだろうかと不安な気持ちの中、あつという間に一年が過ぎました。

自己紹介として、これまでの色々な出会いをお話させていただきます。

私が三味線を始めたのは、

四十数年前の小学6年生の頃です。原田栄次郎先生と同じ八千代市に住んでおり、母が勤めていた土建会社の周年記念イベントにプロの民謡歌手の先生方が出演され、ビデオの撮影係を父から頼まれた時の事です。そのイベントの中で福居展大先生と原田英昌先生が津軽三味線の掛け合い演奏をされ、津軽三味線の撥付けの音を聴いた瞬間、雷に打たれたような(本当にビリビリと感電したような)衝撃的な感覚を受けました。その音に魅せられた私は父に頼んで、どうしても津軽三味線を習ってみたいと紹介していただいた栄次郎先生門下の原田英昌先生に師事しました。中学の三年間は頭の中は津軽三味線の事しかなく、学校から帰って

るとすぐ三味線を練習し、夜になり父に「そろそろ終わりにしてくれ!」と言われるまでずっと弾きまわっていました。大好きな上に沢山練習したせいか早く上達し、原田栄次郎先生率いる門下の先生方と一緒に巡業に参加させていただく事ができました。

当時、子供が津軽三味線を弾いているという事で珍しがられ、とても可愛がっていただきました。その後、大学に進学した頃に栄次郎先生の審査のもと名取をいただきました。若かった私は粋がつて速弾きをしましたところ、栄次郎先生から「三味線は速く弾けばいいってもんじゃないんだぞ。唄につけられなければ意味が無いよ」とお叱りを受けました。当時はお叱りの意味が良く解りませんでした。が、今になってみると良く解ります。社会人になりバブル時期だった事もあり、仕事に忙殺され、知らず知らずのうちに三味線から遠ざかってしまっていました。3年間の印刷会社勤めで叩き上げられたのち、結婚を機に父の会社で働くようになり、仕事の忙しさを理由に三味線を弾か

ない悶々とした日々を送っていたある日の事。ステンドグラスなどの手工芸を趣味にしている妻に「お前は好きな事が出来ていいよな」となどと愚痴を言ってしまった時に「あなたも本当に好きな事ならば時間のやり繰りは出来るはずだ」と言い返され、ハッと我に返りました。それからなんとか時間のやり繰りをして稽古を再開できるようになりましたが、この一件が無ければ三味線は辞めてしまっていたかもしれせん。今でも妻には本当に感謝しています。

その後、地元日本橋の有馬小学校で三味線教室を依頼され、子ども達に教えるようになりしました。教えた子ども達が本当に楽しそうに三味線を弾いている姿を見ると、こちらが元気をもらい、気持ちがいっぱい豊かになります。その延長で大人のにも教えるようになり、沢山の若い生徒さんが出来ました。

そんな中、当NPO法人に参加するきっかけとなりました偶然の出会いがございました。



生徒さんの中のひとりの方が、アパート住まいの為三味線の練習が出来ず、ある日に墨田川のテラスで練習していたところ、声をかけていただいた方へちに藤田周次郎先生と判明へからお誘いを受けて、民謡民舞公演実行委員会発足記念公演のチケットをいただいたそうです。公演のプログラムの中に、英昌会で色々とお世話になっていました鶴澤さんのお名前を偶然発見し連絡をとらせていただきました。代表の三宅さんをご紹介していただき、会の趣旨に感銘を受け入会をさせていただきました。

「三味線が大好き」という気持ちだけでここまで来てしまいました。が、昨年の秋の華祭りでは、三味線合奏の参加やプールの先生方と曲弾き演奏を一緒にさせていただき大変勉強になりました。師匠をなくし、唄の勉強が出来なくなってしまうしましたが、あらためて唄の勉強や新たなチャレンジもしていきたいと思う所存です。

会社の後継ぎ、英昌会の後継ぎと二足のわらじを履く身ではありますが、これからの民謡界のために、とにかく若い世

代の方を一人でも多く指導し、世代の裾野を広げる草の根活動を続けていけたらと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

山形旅行

のご案内

交流事業として年に一度旅行を計画しております。親睦と地元の民謡を聞いて温泉を楽しむような旅行。第一回は9月12日から2泊3日(月)火) 山形県最上町ご出身の米谷智先生と相談して山形旅行の準備を進めております。

山形までは新幹線で、県内の観光はバスで移動。最上川舟下り、宝珠山立石寺通称「山寺」を巡り、東根市の民謡の宿「あづまや」で地元の民謡と温泉を楽しむ。頂上までは行けませんが出羽三山にも行けたら。

コロナ対策も可能な限りしながら山形を巡る旅。ご家族、ご友人もお誘いください。

参加費用は七万円程度の予

定です。詳細は人数確定の上、申込頂いた方にご案内します。つきましては6月20日まで同封の申込書にてファクシ

リご返信くださいますようお願いいたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



本年度の総会

懇親会のご案内

日時 8月21日(日)

12時から総会

13時から懇親会

会場 市川グラウンドホテル

(JR市川駅徒歩3分)

当会は6月決算となっており、会員の皆様には改めて総会資料と一緒に7月末日ごろご案内申し上げます。ご予約くださいますようお願い申し上げます。

総会終了後には懇親会を予定しております。多くの皆様のご出席をお待ちしております。

一周年記念公演

民謡民舞「秋の華まつり」

開催のご案内

日時 10月10日(月)祝日

12時半開演(12時開場)

会場 亀戸文化センター

「カメリアホール」

(亀戸駅 徒歩2分)

一周年記念公演を来る10月10に予定しております。ご出演の皆様にも、ご来場の皆様にも喜んでいただけるバラエ

ティに富んだ楽しい公演になるよう企画しております。ご協力ください。大勢の方にご出演頂きますようよろしくお願い致します。

出演料

会員特別価格二五〇〇円

◆唄・伴奏でのご出演の場合

一万円(チケット4枚)

◆踊でのご出演の場合

二万円(チケット8枚)

ご協力くださいますようよろしくお願ひいたします。

同封の出演申込書にご記入の上、6月末までにご返信くださいますようお願い申し上げます。8月初めにはチケットとプログラムをお送りできるよう準備予定です。ご協力くださいますようお願いいたします。

民謡民舞「夏の華まつり」

開催のご案内

日時 7月31日(日)

12時半開演(12時開場)

会場 浅草木馬亭

ご出演の皆様にも、ご来場の皆様にも喜んでいただけるバラエティに富んだ楽しい公演になるよう企画しております。どうぞよろしくお願ひ致します。

編集後記

令和4年も半分が過ぎようとしていきます。年齢を重ねるごとに月日の経つのが早く感じられます。貴重な一年です。まずは一日一日を大切に生きていきたいと思います。

暖かくなったからか、ワクチン接種が進んだせいか、それとも慣れたせいか、ウイズコロナで、催し物が増えてきたように思います。

先日、国立劇場で日本舞踊を鑑賞する機会がありました。踊りもさることながら、唄・三味線・太鼓・鼓・大鼓・尺八・笛の地方・日本のオーケストラに感激してきました。長唄・大和楽・地歌等久しぶりに「かつこいい」とさえ感じました。民謡の歴史はおそらく百年程度だと思いますが、邦楽の歴史を感じる貴重な機会でした。

今回会報を発行するにあたり、快く寄稿頂きました皆様有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。日経新聞の私の履歴書に今月から一か月間、学校の大先輩が執筆され、その中で「この履歴書は僕の人生の途中経過の記録のようなものだと思う

のだが、人様の前で自分の来歴の報告ができるのは名誉なことだ。(途中略)僕にも恥じらないの気持ちがないわけではないのだが、粗板の上のヨイの気持ちになつて僕の人生の装飾の無いところを書いていきたい。他山の石でも反面教師でも何かの役に立つなら幸いだ。僕は特に会社人生を一生懸命やってきたので、すこしくらいは参考になることもありはしないかと思つている」(日経新聞6月1日私の履歴書より抜粋)と言われています。なかなか文章を書く機会も少ないと思います。この会報を活用いただければ幸いです。

引き続き皆様からの原稿をお待ちしております。テーマは自由。民謡のことでも、民謡以外のことでも。身近なことから、専門的なことまで、自由です。どうぞご協力の程、宜しくお願いします。

手作りの会報です。十分注意しておりますが誤字脱字や、見づらくところもあるうかと思ひます、どうぞお許し下さい。お気づきの点がありましたら何なりと申し付け下さい。暑さに向かい、自愛下さい。